第27回 神奈川県 看護教育フォーラム

かながわ から看護の未来を考える

2026年 3月21日 土 13:30-16:30

横浜中央看護専門学校 5階講堂

開会式	会長挨拶 来賓挨拶
教員表彰	受賞者紹介
基調講演	テーマ：2033年に向けたビジョンと取り組み 【講師】本舘 教子 氏〈神奈川県看護協会　会長〉
シンポジウム	テーマ：社会のニーズに応える看護職者の育成 【シンポジスト】 由井 志穂 氏〈神奈川県健康医療局保健医療部 医療整備・人材課　課長代理〉 神保 京美 氏〈伊勢原協同病院　副院長兼看護部長〉 佐藤 裕季子 氏〈神奈川県立平塚看護大学校　学校長〉
閉会式	

主催　神奈川県看護師等養成機関連絡協議会

共催　神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会

第 27 回 「神奈川県看護教育フォーラム」

目次

会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

神奈川県看護師等養成機関連絡協議会

会長：岡本 明子

基調講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

公益社団法人 神奈川県看護協会

会長：本舘 教子 氏

シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

神奈川県健康医療局保健医療部医療整備・人材課

課長代理：由井 志穂 氏

伊勢原協同病院

副院長兼看護部長：神保 京美 氏

神奈川県立平塚看護大学校

学校長：佐藤 裕季子 氏

ご挨拶

神奈川県看護師等養成機関連絡協議会

会長：岡本 明子

神奈川県看護師等養成機関連絡協議会における看護教育フォーラムは、これまで神奈川県の看護基礎教育のため、さまざまなテーマで開催してきました。過去には、学会と同じように研究報告や交流集会をし、県内の実習病院と看護教育に携わる教員たちが日々の実践知を共有する貴重な場となっておりました。時代と共に開催形式を変化させ、より会員校のニーズに合うよう、タイムリーなテーマを取り上げ、貴重なディスカッションの場となっておりました。コロナ禍にあっても、これまで積み上げてきた歴史を大切にしようと努力してきました。このように継続することができたのは、会員校の皆様のご協力のおかげです。感謝申し上げます。

今年度の総会、機関長会議で報告したように、看護教育フォーラムの役割を見直す時期にきております。今回は、神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会との共催でテーマを「かながわから看護の未来を考える」とし、学び続ける看護師の育成をめざして看護基礎教育だけでなく、教育を支えていただいている神奈川県の健康医療局、神奈川県看護師等養成機関実習病院連絡協議会にもご協力いただきます。ここ数年、神奈川県の大きな課題は、人材育成です。加えて、コロナ禍で、人との接触を避けてきたため、援助的な関係作りが苦手な学生、新人看護師も増えており、サポートにご苦労されていると思います。看護教育フォーラムが、それらについて、ディスカッションできる場になることと思います。

基調講演として、神奈川県看護協会の本舘教子会長に「2033 年に向けたビジョンと取り組み」についてお話しいただきます。シンポジウムでは、「社会のニーズに応える看護職者

の育成」をテーマに、様々な立場の方がシンポジストとして登壇します。シンポジストは、神奈川県健康医療局保健医療部医療整備・人材課の由井志穂課長代理、伊勢原協同病院の神保京美副院長兼看護部長、神奈川県立平塚看護大学校の佐藤裕季子学校長です。いずれも看護教育現場での豊富なご経験から、神奈川県の看護の未来についてお話いただけることを楽しみにしております。このような形でディスカッションできることが、当協議会の強みです。是非とも多くの皆様にご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。最後になりましたが、開催に際して、ご協力いただきました神奈川県、神奈川県看護師等養成実習病院連絡協議会をはじめとする関係団体の皆様、実習施設の皆様、会員校の皆様に深く感謝申し上げます。

基調講演

テーマ：2033 年に向けたビジョンと取り組み

〈講師〉

公益社団法人 神奈川県看護協会

会長：本舘 教子 氏

〈座長〉

昭和医科大学　保健医療学部　看護学科

准教授：和智 志げみ 氏

2033 年に向けたビジョンと取り組み

【講師プロフィール】

神奈川県看護協会 会長

本舘 教子（Noriko Motodate）氏

【現在のご所属】

公益社団法人 神奈川県看護協会 会長

（2025 年 6 月就任）

【経歴と専門分野】

・キャリアの歩み

1981 年に看護師としてのキャリアをスタートされました。

1998 年より聖マリアンナ医科大学病院にて、長年にわたり看護部門のリーダーシップを執りご活躍されてきました。

・経営とマネジメントへの貢献

2014 年に看護部長、副院長に就任。2021 年には看護統括執行役員を兼務されました。

急性期医療におけるチーム医療の推進や、看護師の働き方改革、病院全体の経営参画など、多角的な視点で医療提供体制の充実に尽力されてきました。

2025 年 3 月に副院長兼看護部長、看護統括執行役員をご退任され、現在の職務に就いておられます。

・スペシャリストとして

「認定看護管理者」として看護管理の質の向上に努める傍ら、災害対策やセルフケアに関する研究・論文発表も多数行っておられます。

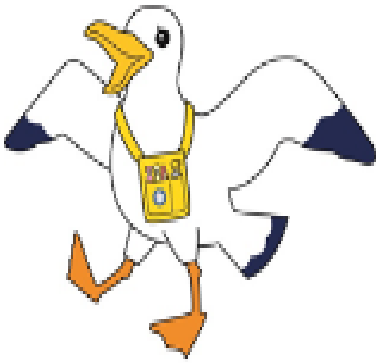
・次世代育成と地域貢献

神奈川県看護職員の確保及び資質向上推進委員会の委員長や、養成校等での後進育成など、看護界の未来を担う活動にも精力的に取り組まれています。

【神奈川県看護協会 理念】

「三つの精神（こころ）」

生命（Life）	誕生から終焉まで、尊厳を守り、真摯に命と向き合う精神（こころ）
自律（Autonomy）	自己の規範を確立し、誠実に行動する精神（こころ）
情熱（Passion）	何事も熱意をもって取り組み、成し遂げようとする精神（こころ）



神奈川県看護協会 マスコット：ジョーさん

シンポジウム

テーマ：社会のニーズに応える看護職者の育成

〈シンポジスト〉

神奈川県健康医療局保健医療部医療整備・人材課

課長代理：由井　志穂　氏

伊勢原協同病院

副院長兼看護部長：神保　京美　氏

神奈川県立平塚看護大学校

学校長：佐藤　裕季子　氏

〈座長〉

昭和医科大学　保健医療学部　看護学科

准教授：和智　志げみ　氏

テーマ：神奈川県における看護職員の人材確保の現状とこれからの養成・確保に向けて

神奈川県健康医療局保健医療部医療整備・人材課
課長代理：由井 志穂 氏

はじめに

神奈川県の令和６年の就業看護職員数は 89,205 人と直近 10 年間で 13,542 人増加し、増加率 17.9％は全国７位の増加率となっています。

しかしながら、人口 10 万人あたりの就業看護職員数は、967.0 人で全国 47 位と非常に少ない人員で医療を支えている状況があります。

本県の人口は約 922 万人で、東京都に次ぐ全国で第２位の人口規模です。さらなる高齢化の進展に伴い、今後 2040 年にかけて 15 年間で高齢者が約 50 万人増加すると推計されています。

一方、本県の出生数は、1990 年代から 2000 年代は毎年８万人前後で推移していましたが、2010 年頃から減少が続き、2024 年には約 5.4 万人となりました。

急速な少子高齢化に伴い、生産年齢人口が減少する中、医療・介護の需要は更に増加が見込まれており、それを現場で支える看護職員の人材確保は、ますます重要となります。

新規養成・離職防止・再就業支援

こうした状況の中、県は、「新規養成」、「離職防止等の定着支援」、「再就業支援」の 3 つを柱に、看護師養成機関や医療機関、看護協会等の関係団体と連携し、総合的な看護職員の確保対策に取り組んできました。

「新規養成」では、看護師等養成所の整備・運営支援や修学資金貸付、中・高校生向けのリーフレットによる広報等を行い、「離職防止」では、院内保育施設の整備・運営や新人看護職員研修等を支援するほか、「再就業支援」では、県ナースセンターで無料職業紹介や

復職支援研修等を実施しています。

受験者数・入学者数・定員充足率の減少

2025 年度の看護系大学の定員充足率は、全国で 99.7%、本県では 101.8%であり、受験者数は減少傾向にあるものの、学生の大学志向の高まりを受けて、一定数の学生を確保しています。

一方、看護師養成所（３年課程）の定員充足率は、全国で 79.5%、本県では 75.9%と年々減少傾向にあります。18 歳人口の減少よりもはるかに養成所受験者数・入学者数の減少が急速に進み、学生確保が困難な状況となり、全国や本県においても閉校を余儀なくされた養成校が相次いでいます。養成所の学生確保はますます困難になると予想され、これまでのような新規養成数を確保することが期待できなくなります。

働きやすい環境づくり

県民が安心できる医療を提供するため、現場を支える看護職員の確保を着実に進めるとともに、生産年齢人口が減少する中、限られた人材で必要な医療や介護を「無理なく」提供できるよう、業務の省力化・効率化により一層取り組むことも必要です。

県では、看護の仕事においても、進歩が著しいデジタル技術やロボット技術を積極的に活用するため、ＩＣＴ機器等の導入への支援のほか、看護師の資格がなくても可能な業務を他の人材が担う、いわゆるタスクシフトに向けて看護補助者の確保、育成を進めるなど、看護職員が無理なく働き続けられ、離職を防止し、復職の促進にもつながるよう、勤務環境の整備にも取り組んでいるところです。

県内における看護職員の養成・確保

こうしたことを踏まえて、神奈川県における看護職員の人材確保の現状をお伝えし、将来を見据えて新規の看護職員を県内でどのように養成し、就業する看護職員をどのように県内に確保していくのかについて、皆様と課題意識を共有し、意見交換しながら考える機会としたいと存じます。

地域を支える看護
－かながわ地域看護師の実践と展開－

伊勢原協同病院
副院長兼看護部長：神保 京美 氏

少子高齢化が進み、地域完結型医療にシフトしている環境下において、様々な患者に対応できるジェネラリストの育成が求められています。また、神奈川県は人口 10 万対比の看護師数が都道府県最下位であり、看護職の確保と定着が最優先課題とされています。

看護師不足については医療施設の規模、地域により財源やマンパワーに差があるため、自施設のみで解決することが困難であり、地域の各施設同士が連携し、看護師を確保・育成する取り組みが必要です。また、看護師は結婚や出産、介護などライフイベントによる離職が多いという特徴があります。今後、医療の質を担保するには、看護師の安定的な確保が重要です。加えて、ライフステージに合わせた働く場の選択肢や視野が広がる機会が必要です。

「かながわ地域看護師」は、地域内の異なる施設間で人事交流を行い、地域の医療や福祉を学ぶことで自施設の役割を理解し、施設間の連携に強い地域医療構想・地域包括ケアシステムの中で活躍することができる看護師を育成する取り組みです。

かながわ地域看護師は養成型と循環型の２つのパターンがあります。養成型は新人から在宅分野での就職を希望する学生を対象とし、初年度は入職した病院で基礎研修を行います。２年目以降に協定先に選ばれている施設への出向を重ね、その後に就職先を決定する仕組みとなっています。循環型は、協定を締結している病院間において、人事交流を行い、一定期間の実務を経験することで他施設の機能を知り、相互理解を深める仕組みです。以下、当院が取り組んだ循環型の人事交流の実際と、済生会横浜市東部病院と汐田総合病院の養成型の人事交流についてご紹介いたします。

当院では、身体拘束最小化に向けて、急性期病院でどのように取り組むのかを課題と

し、2024 年 6 月から、かながわ地域看護師養成事業に参画し、精神科単科である秦野厚生病院と人事交流を行いました。出向者を選定するにあたって重要視したのは、他施設の方とでもスムーズに交流を図ることができる優れたコミュニケーション能力と、自己の課題に真摯に取り組む姿勢です。とはいえ、初めて赴く勤務先には不安もいっぱいです。出向中は定期的に看護部長と所属長との面接に加え、看護部長同士のミーティングも行い、困りごとは速やかに解決できるようにしました。

当院初の出向者は期待に応えて、3 か月にわたり認知症看護について学び、身体拘束最小化に向け主体的に取り組んでいます。今年 2 年目となりますが、出向した職員は自施設で学ぶことができないあらゆる体験について目を輝かせて語り、また現場に還元しています。

済生会横浜市東部病院と汐田総合病院が取り組んでいる、養成型のプログラムは新人看護師があらかじめ配属病院が決まっている 5 年間を歩むプログラムで、1 年目は済生会横浜市東部病院で高度急性期医療を経験し、2～4 年目は汐田総合病院で回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟などで看護を実践します。5 年目で 2 つの病院のどちらで勤務をするのかを自分で決めてプログラムが終了となります。

学生が就職活動をするにあたっては、医療処置が多いことに看護の価値をおいてスタートは急性期医療からという傾向もあります。急性期というのは患者の人生のひとときのことで、地域や在宅でかかわる期間のほうがはるかに長いことから、看護の活躍の場は地域へと広がっています。

新人のときから多様な場所での看護を少しずつ経験することは、どのような分野が自分に向いているのかを考える機会ともなります。また、ライフステージが変わっても、自分がどのような看護をしたいのか、看護を続けていられるのかを考えるときに、新人のころの経験が選択肢の幅を広げることにもつながります。

養成型については、かながわ地域看護師事業ではまだ展開されていませんが、今後の取

り組み課題として、現在検討がなされています。

看護師が多様な場で活躍できるよう、地域で人材を育成していくシステムとして定着することを目指して尽力していきたいと考えています。

神奈川県の看護教育のあゆみ
－本県における看護基礎教育の発展と継承－

神奈川県立平塚看護大学校
学校長：佐藤 裕季子 氏

本県では、時代の変遷とともに看護基礎教育現場の形が変化していった。県立看護専門学校は、開校や統廃合、閉校を繰り返しながら、神奈川県立保健福祉大学の開学後、概ね現在の形を維持している。また、県立以外の看護専門学校や大学等においても、その沿革を紐解くと、時代とともに変化していることが明らかである。加速する少子化、多死社会における人口減少等により、この先看護師を志すものをどのように確保・育成していくのか、看護師等養成機関としての課題は大きい。

本県は、看護師育成や現任教育に対し、全国でも先駆的な役割を担ってきたと言える。准看護師養成の停止は、高度な専門性に対応する看護職者の育成を目指してきた。また、看護教育大学校（現　実践教育センター）の存在は、専門職である看護職者がさらに学びを深める場として、多くの人材を輩出してきた。そして本校における４年制の導入も、看護基礎教育における本県の施策の一つである。

地域医療の格差や今後さらに加速する高齢化等に対し、平成２３年８月～平成２４年３月医療施策の基本理念「神奈川県医療のグランドデザイン」策定プロジェクトにおいて、看護師等医療人材の養成・確保についての課題が抽出された。養成段階でのさらに高い実践能力を身につけることが求められ、看護教育のあり方について検討が必要となった。平成２４年１～１１月「神奈川県における看護教育のあり方検討会」により、県立看護専門学校においてモデル的に修業年限を４年とし、実習時間増等効果的な教育を導入した課程の創出を検討すべきという結論のもと、地域と協力関係が築きやすい本校に、平成２９年４月「平塚看護大学校」として４年制が導入された。

4 年制の導入にあたり、時代のニーズに対応できる看護師の育成について、検討が行われた。「看護師になる教育」から「看護師として働く人になる教育」をコンセプトに、「基本的な看護実践能力がしっかり身につき、新人看護師から地域・在宅でも働くことができる人材」を育てる教育に転換し、9 年目を迎えた。令和 8 年 1 月現在、5 期生約 400 名の卒業生を輩出したが、大学校としての歴史はまだ浅く、本校の教育実践については今後卒業生の活躍により、さらに評価されると考える。

この先ますます保健・医療・福祉の現場は複雑化することが予想される。また、一方で看護師を志す学生の背景も多様化し、教育現場での支援も多岐にわたる現状がある。神奈川県で活躍する看護師を育成するためには、量・質ともに各養成機関だけでの努力では限界がきているのではないかと考えられ、看護師育成に対する本県としての方向性の明示が必要となるであろう。地域医療構想における神奈川県の未来を見据え、各養成機関の魅力を活かした教育の提供をどのように維持・発展できるのか、今後の看護基礎教育について、皆さんと考えていきたい。

神奈川県看護師等養成機関連絡協議会

Kanagawa Nursing School Association

第 27 回 「神奈川県看護教育フォーラム」

テーマ：かながわ から看護の未来を考える

開催日時：2026 年 3 月 21 日(土)　13:30～16:30

開催会場：横浜中央看護専門学校 5 階講堂

《企画・運営》

神奈川県看護師等養成機関連絡協議会

担当理事	志村 央子	湘南平塚看護専門学校
部 会 長	栗原 弘子	小澤高等看護学院
部 会 員	和智 志げみ	昭和医科大学保健医療学部看護学科
	大久保 昭宏	横浜創英大学看護学部看護学科
	福井 里佳	慶應義塾大学看護医療学部
	金澤 悠喜	慶應義塾大学看護医療学部
	加藤 エリ	神奈川県立よこはま看護専門学校
	眞田 英子	神奈川歯科大学短期大学部看護学科
	北村 香織	関東学院大学看護学部看護学科